

週休二日の実現に向けて



働き方を変える。建設業を変えていく。

これは、単なるスローガンではありません。必ず成し遂げるという宣言であり、約束でもあります。

小さな気付きや行動から、業界全体を変えていく。

一人ひとりの働き方を見直すことが、次世代の働き手を増やすことにもつながると思うから。

週休二日を。

誰もが笑顔で働ける未来を。すべての現場で実現していきます。



確かなものを 地球と未来に

一般社団法人 **日本建設業連合会 九州支部**

JFCC JAPAN FEDERATION OF CONSTRUCTION CONTRACTORS KYUSHU BRANCH OFFICE

〒812-0011 福岡市博多区博多駅前4丁目3-22 産恵ビル3階 TEL 092-451-6244 FAX 092-481-0941

編集・発行 **総務広報委員会**

一般社団法人 日本建設業連合会 本部・各支部

本部	〒104-0032 東京都中央区八丁堀2-5-1 TEL03-3553-0701 FAX03-3551-4954		中部支部	〒460-0008 名古屋市中区栄3-28-21 TEL052-261-3808 FAX052-261-4363		愛知・岐阜・静岡・三重	
北海道支部	〒060-0002 札幌市中央区北二条西1-10 TEL011-261-6243 FAX011-261-2528		北海道	関西支部	〒540-0031 大阪府中央区北浜東1-30 TEL06-6941-3658 FAX06-6942-4031		大阪・福井・滋賀・京都・兵庫・奈良・和歌山
東北支部	〒980-0014 仙台市青葉区本町2-2-3 TEL022-221-7810 FAX022-265-9465		宮城・青森・岩手・秋田・山形・福島	中国支部	〒730-0051 広島市中区大手町2-11-15 TEL082-243-3017 FAX082-242-2380		広島・鳥取・島根・岡山・山口
関東支部	〒104-0032 東京都中央区八丁堀2-5-1 TEL03-3552-3208 FAX03-3552-3206		東京・茨城・栃木・群馬・埼玉・千葉・神奈川・山梨・長野	四国支部	〒760-0026 高松市磨屋町6-4 TEL087-851-6969 FAX087-851-3176		香川・徳島・愛媛・高知
北陸支部	〒950-0965 新潟市中央区新光町6-1 TEL025-285-8886 FAX025-285-8884		新潟・富山・石川	九州支部	〒812-0011 福岡市博多区博多駅前4-3-22 TEL092-451-6244 FAX092-481-0941		福岡・佐賀・長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島・沖縄

(一社)日本建設業連合会ホームページ
<https://www.nikkenren.com/>

日建連のホームページには、建設業に関する基本データ、戦後の建設業界の関連年表、全国の土木博物館一覧表、また、他では見られない迫力ある土木写真など、お役に立つ情報が満載です。ぜひ、アクセスしてみてください。

九州の建設業[キーストン]

Keystone

要石(かなめ石)の意。社会資本の

整備を通じて当団体が、豊かな未来づくりのかなめとなるよう願いをこめて。

vol.
40

2024年2月発行



熊本城(写真提供：熊本市観光政策課)

一般社団法人 日本建設業連合会 九州支部

Message

支部長ご挨拶



(一社)日本建設業連合会
九州支部 支部長

小森 浩之

〈鹿島建設(株) 常務執行役員 九州支店長〉

防災・減災・国土強靱化対策の推進と 魅力ある業界に向けて

九州支部長の小森でございます。
まず、2024年元日に発生しました能登半島地震によりお亡くなりになられた方々に、謹んでお悔やみを申し上げますとともに、被災された方々に対しお見舞いを申し上げます。

本誌をご覧の皆様には当支部の事業活動につきまして、格別のご支援、ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

近年、激甚化・頻発化する風水害、切迫する南海トラフ地震をはじめとする巨大地震の発生の懸念など、猛威を振るう自然災害に対する備えを怠ることはできません。また、日本経済を支えるインフラの老朽化、劣化の影響が顕在化してきており、国民生活を脅かしております。

これらのことから、防災・減災、老朽化対策等、国土強靱化への意識が高まり、現在、防災・減災・国土強靱化対策が推進されております。

2023年6月に成立した改正「国土強靱化基本法」に位置付けられた「国土強靱化実施中期計画」に基づき、より一層、必要な国土強靱化が推進されるものと期待しており、私ども建設業界では、生産性の向上にも努めており、日建連としても、会員企業を挙げて、公共工事の迅速かつ円滑な施工に万全を期す所存であります。

しかしながら建設産業を取り巻く環境は、2024年4月からと間近に迫った時間外労働の上限規制の適用、高止まりする資材価格、賃上げへの取り組み、建設技能者の高齢化・担い手不足への対応と課題が山積しております。

これらの課題を克服し、若者が希望と誇りをもって働くことができる産業として、将来の担い手確保に万全を期する必要があります。そのため日建連では、週休二日の実現、技能者の賃金改善、建設キャリアアップシステムの普及促進など、「働き方改革」と「担い手確保」に丸一となって取り組んでおります。

また、「生産性の向上」についてもプレキャスト化の促進、i-ConstructionやDX(デジタルトランスフォーメーション)の推進など新技術の現場への展開を進めるなど、「生産性の向上」にも努めております。

私ども九州支部会員一同は、建設業の社会的役割を果たしながら、国民の理解促進を図りつつ、建設業界の健全な発展と魅力ある建設産業づくりのための活動を展開してまいりますので、皆様のご理解ご協力と今一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

Keystone

九州の建設業[キーストン]

vol.
40
2024年2月発行

contents

九州ウォッチング

2 「誰もが憧れる 上質な生活都市くまもと」の 実現に向けて〈熊本市〉

けんせつ小町

いつもイキイキ けんせつ小町！

8 西松建設株式会社 立野ダムJV工事事務所
小野澤 果奈さん

10 株式会社大林組 九州支店
山本 美穂さん

市民現場見学会

来て、見て、感じてみよう！土木・建築の魅力

12 親子現場見学会 金山川調節池整備工事

13 けんせつ小町現場見学会 日田山国道路 日田5号トンネル工事

14 土木工事現場見学会 早岐川河川改修工事(1号橋下部工)
佐世保道路 佐世保高架橋南(下部工)工事・佐世保高架橋(拡幅)工事

15 一般現場見学会 NEXCO西日本 道路管制センター
福岡201号 九郎原トンネル新設工事

日建連の取り組み

16 けんせつ小町3名がFMラジオに出演し、 建設業の仕事を紹介！

Report

17 •土木の日ファミリーフェスタ2023

18 •インターンシップ講演会

19 •災害支援関係者説明会
•九州建設技術フォーラム2023

20 •建設技術講演会
•災害防止総決起大会

21 •意見交換会
•安全環境委員会活動



Outline

22 団体の概要

Information

24 会員・役員名簿

Kyushu watching

九州ウォッチング

「誰もが憧れる 上質な生活都市くまもと」の 実現に向けて



熊本市



〈熊本市長〉

おおにし かずふみ

大西 一史 昭和42年12月9日 熊本県熊本市生まれ

■略歴

昭和61年 熊本県立熊本北高等学校卒業

平成 4年 日本大学文理学部心理学科卒業

平成 4年 日商岩井メカトロニクス㈱入社

平成 9年 熊本県議会議員

平成26年 熊本市長

はじめに

熊本市は、熊本城に代表される歴史や文化、清らかな地下水、そして「森の都」と称される豊かな緑を誇る九州中央の拠点都市です。

また、医療機関や高等教育機関、商業施設が高度に集積するなど、都市機能が充実するとともに、古くから九州各地を結ぶ交通の結節点として発展し、現在においても九州各県へ通じる高速道路や国道、九州新幹線など、九州各拠点都市をつなぐ連携の要として重要な役割を担っています。

さて、本市は、令和4年（2022年）4月に政令指定都市移行から10年を迎えました。振り返りますと、市民の尊い生命や財産をはじめ、市民生活に甚大な被害をもたらした「平成24年7月九州北部豪雨」や「平成28年熊本地震」など、度重なる災害に見舞われた10年でした。

私たちにとって厳しい経験ではありましたが、人と人との絆や地域のつながりの重要性を改めて認識するとともに、これらの経験や教訓を活かし、橋梁の耐震化や長寿命化、広場の整備など、災害に強い都市基盤づくりを推進してまいりました。

そして現在、TSMCをはじめ、半導体関連企業の進出を契機として、経済活動の更なる活性化や都市生活の利便性向上に資する道路ネットワーク等のインフラ整備に取り組んでいるところです。

さらに、「森の都宣言」から50周年という節目の年に、新たに「森の都推進部」を創設し、新たなステージで森の都づくりを推進するなど、「誰もが憧れる上質な生活都市くまもと」の実現に向け、様々な取組を推進してまいりますので、皆様には、なお一層のお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

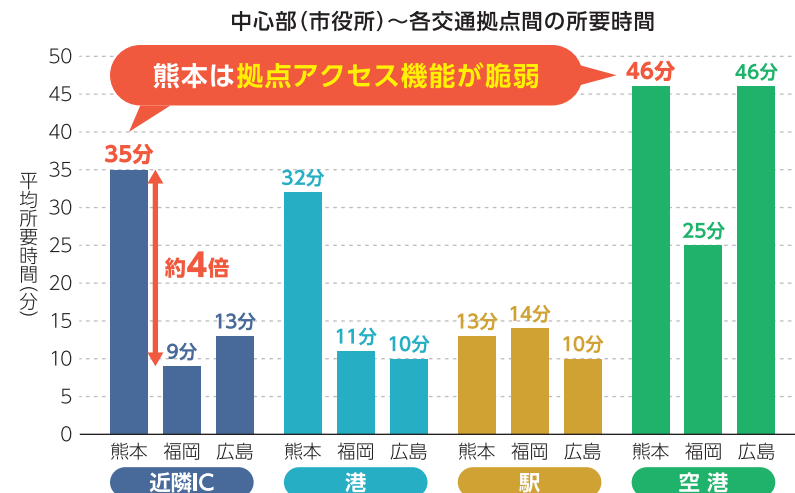
1 熊本都市圏の新たな3つの高規格道路「10分・20分構想」

現在、県内においては、九州中央自動車道や中九州横断道路、有明海沿岸道路など、熊本県と九州各県を結ぶ広域道路ネットワークの整備が大きく前進しています。一方、それらの受け皿となる熊本都市圏においては、道路網の脆弱性が指摘されており、近隣ICや空港など交通拠点までの所要時間は、福岡や広島などの都市圏と比較すると、最大約4倍の時間を要し、経済活動や市民生活に深刻な影響を与えています。さらに、熊本都市圏では慢性的な交通渋滞が発生しており、熊本市中心部の平均旅行速度や主要渋滞箇所数は、3大都市圏にあたる東京都区部、大阪市、名古屋市を除いた政令指定都市で最悪の水準となっています。この渋滞による住民一人あたりの経済損失額は、熊本県民で約13～17万円／年、熊本市民で約17～24万円／年と非常に深刻であり、交通拠点へのアクセス性の改善と熊本都市圏の交通渋滞解消は喫緊の課題となっています。

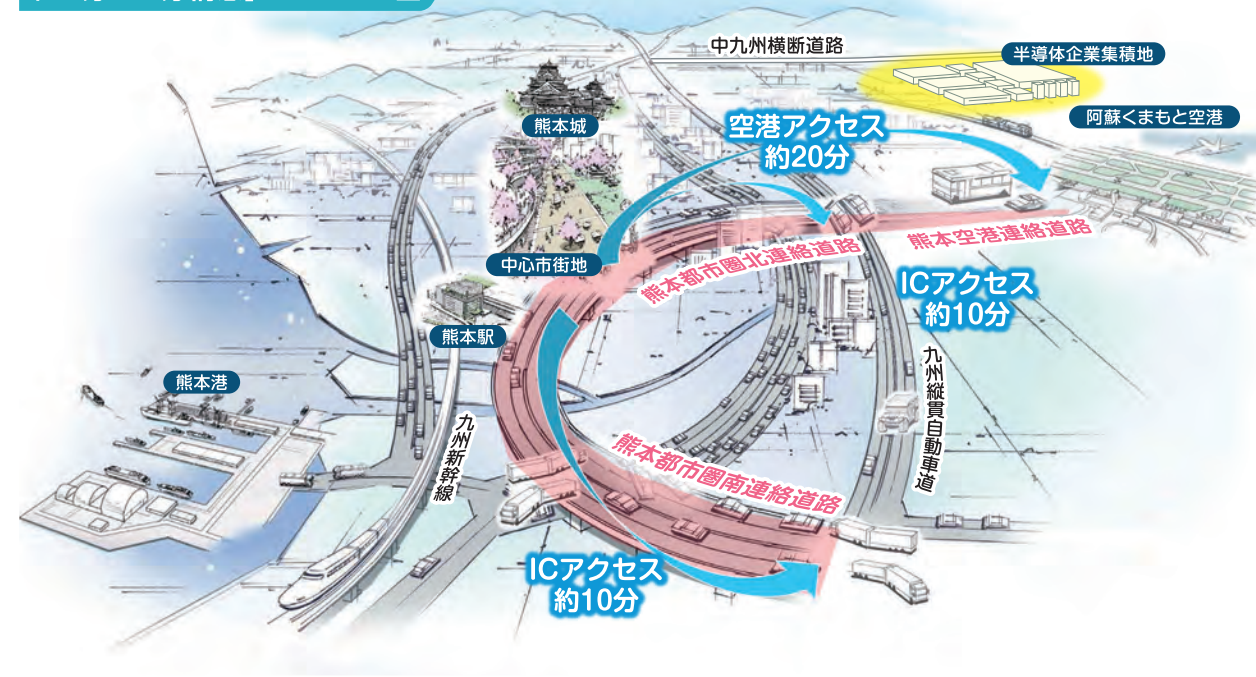
このような中、熊本県と本市は、これらの交通課題の解消はもとより、平常時・災害時を問わず、人流と物流を確保する観点から、「熊本県新広域道路交通計画」を令和3年（2021年）6月に策定しました。熊本市中心部から高速道路インターチェンジまでを約10分、熊本空港までを約20分で結ぶ「10分・20分構想」を掲げ、定時性と速達性を兼ね備えた「熊本都市圏北連絡道路」、「熊本都市圏南連絡道路」、「熊本空港連絡道路」（以下、熊本都市圏3連絡道路）を新たな高規格道路として位置づけました。

現在、県と本市は「10分・20分構想」の道路計画の具体化に向け、客観的かつ専門的な立場で助言をいただく「熊本都市圏3連絡道路有識者委員会」を設置し、市民や企業等とコミュニケーションを図りながら道路概略計画の検討を行う「住民参加型の道路計画段階」を進めています。

熊本都市圏3連絡道路の実現は、人流と物流の活性化により地域経済の発展を促進し、県下での経済波及効果は年間約1,500億円、また、大規模災害時における売上減少抑制効果は約3,600億円にものぼると算出されています。さらに、世界的半導体企業であるTSMCの進出を踏まえ、九州全体の発展にも貢献すると考えており、今後は、「住民参加型の道路計画段階」において、市民や企業等の皆様からのご意見を丁寧に伺い、よりよい道路計画となるよう検討を進めてまいります。



「10分・20分構想」のイメージ図



2 熊本環状道路の整備

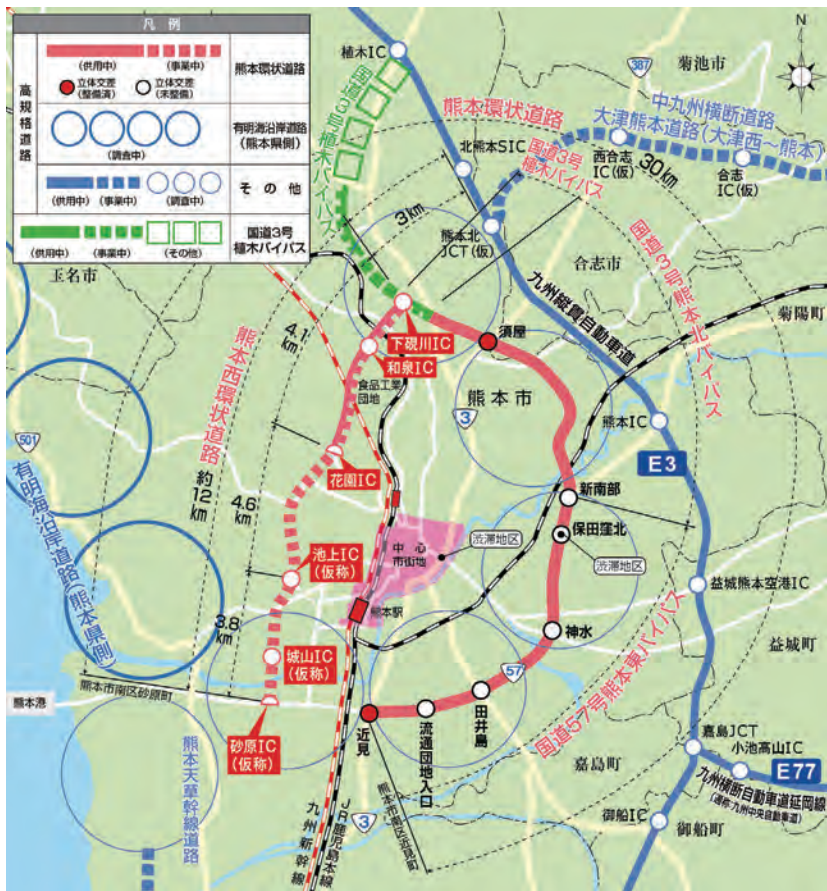
熊本環状道路は、「熊本西環状道路」、「国道3号植木バイパス」、「国道3号熊本北バイパス」及び「国道57号熊本東バイパス」から構成される環状道路であり、中心市街地の渋滞緩和や都市圏交通の連携を促す等の効果が期待されます。

そのうち、熊本西環状道路は、熊本市南区砂原町(主要地方道 熊本港線)と熊本市北区下硯川町(国道3号 植木バイパス)を結び、延長12.5kmの都市計画道路です。

金峰山山系の東側山麓部を通過する本路線は、6箇所のインターチェンジから出入りを行い、速度サービスレベルを時速80km/hとする自動車専用道路です。

本路線は熊本環状道路の一翼を形成し、都市部に集中する自動車交通を適切かつ効率的に分散導入することにより、都市活動の活性化に寄与するとともに、熊本市西部地域の利便性向上を支える道路です。

全延長12.5kmのうち下硯川インターから花園インターまでの4.1km区間については、平成29年(2017年)3月に暫定2車線で供用開始しました。また、花園インターから池上インターまでの4.6km区間については、令和7年度(2025年度)の供用開始に向けて工事を進めており、残る3.8km区間についても、令和4年度(2022年度)に新規事業化が決定したため、測量や地質調査結果等を踏まえ、道路や橋などの設計を進めています。



熊本環状道路の概要図 出典：2023熊本都市圏の骨格幹線道路より



熊本西環状道路(池上IC)完成イメージ図



池上IC工事状況(R5.10時点)

3 安全・安心な道路の実現

1.交通安全に関する取組「ゾーン30プラス」

全国的な取組として、生活道路における人優先の安全・安心な通行空間の整備の更なる推進を図るため、最高速度30km/hの区域規制「ゾーン30」とハンプ等の物理的デバイスとの適切な組合せにより交通安全の向上を図る区域を「ゾーン30プラス」として設定し、道路管理者と交通管理者が連携しながら整備を進めています。

本市では、中央区新屋敷1丁目地区、東区東町地区の2地区でハンプ等の物理的デバイスを設置しています。今後、整備地区を増やし、更なる生活道路の交通安全向上を目指します。



ハンプ設置状況(中央区新屋敷1丁目地区)



スムーズ横断歩道設置状況(東区東町地区)

2.橋梁・トンネル等の道路施設の適切な維持管理

本市では、九州の市町村では最も多い約3,000橋の橋梁を管理しております。これらは今後、急速に老朽化を迎えることから、橋梁やトンネルなど道路施設の長寿命化修繕計画を策定し、新技術を活用した点検や修繕によりトータルコストの縮減を図りつつ、施設の損傷の状態や原因を把握し、適切な措置をとることで、計画的に長寿命化を図り、効率的な維持管理に努めています。



ドローンを用いた橋梁点検



安巳橋(あんせいはし)補修工事状況

4 熊本市下水道浸水対策計画2023の策定

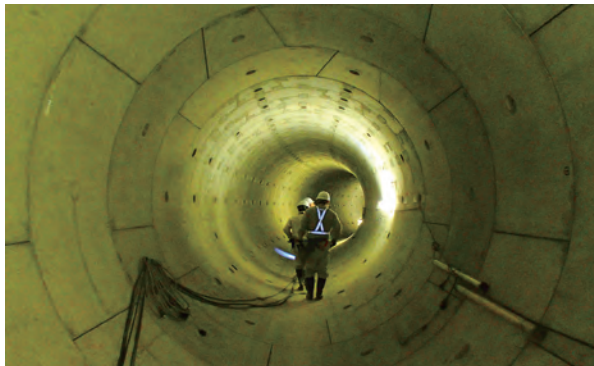
近年、雨の降り方が激甚化・頻発化しており、「平成30年7月豪雨」や「令和元年東日本台風」など、全国各地で大規模な都市型水害が発生しています。これらを踏まえ、あらゆる関係者が協働して流域全体で水害を軽減させる「流域治水」への転換が必要とされているところであり、これまでのハード整備に加え、ソフト対策を踏まえた総合的な浸水対策の推進が求められています。

また、国土交通省が設置した「気候変動を踏まえた都市浸水対策に関する検討会」では、令和3年(2021年)4月に「気候変動を踏まえた下水道による都市浸水対策の推進について」の提言がとりまとめられており、気候変動の影響を考慮した雨水排水施設の整備など、新たな浸水対策計画の策定が求められているところです。

本市では、これまで、市街化区域の内水対策として、平成20年度(2008年度)に策定した「熊本市下水道浸水対策計画(重点6地区)」に基づき、浸水被害が特に大きい重点6地区のハード整備に取り組んできました。重点6地区のうち、3地区の施設を供用しているところであり、残りの3地区についても工事に着手するなど、重点6地区の事業完了時期が概ね見えつつあることから、次期計画の策定期を迎えています。

このような背景を踏まえ、気候変動の影響を見据えた浸水対策計画である「熊本市下水道浸水対策計画2023」を令和5年度(2023年度)内に策定し、ハード整備とソフト対策が一体となった内水対策を計画的に進めることで、市民が安心して快適に住み続けられるまちづくりを実現してまいります。

供用開始済の施設



加勢川第6排水区雨水貯留管



坪井川第3排水区雨水調整池

5 浸水被害の防止・軽減

本市には、中心市街地を流れる白川、坪井川をはじめ、緑川や菊池川など国や県が管理し、河川の氾濫を防止するための改修が進められている大きな川があります。一方、本市においては、これらに流れ込む中小の河川の改修や排水路の整備など地域における浸水対策を進めています。



健軍川の捷水路整備(上空から)



健軍川の捷水路整備(下流を望む)



旧天明新川の河道拡幅整備(下流を望む)



6 持続可能な「森の都」の実現

熊本市は、金峰山や立田山、託麻三山、江津湖といった豊かな緑に取り囲まれており、1896年(明治29年)に第五高等学校赴任のため上熊本駅に降り立った文豪・夏目漱石が、「森の都」と表現するなど、その緑は地下水と並び熊本市を代表する特徴の一つとなっています。

その後1972年(昭和47年)、都市汚染が大きな課題となる中、熊本市議会は、自然環境の回復による生活環境の保全を目指す「森の都」を宣言し、これを受けて、「60万本植樹運動」や「花いっぱい運動」などの緑化運動が展開されました。

この緑化運動の展開により、緑の保全が図られる一方で、市街地の拡大が進んだことによる緑の減少や放置竹林の拡大による緑の質の低下といった新たな問題も生じており、改めて市民・企業・行政の力を結集し、「森の都」の再生に向けた取組を進めていかなければなりません。

本市では、令和4年度(2022年度)に開催した「全国都市緑化くまもとフェア(くまもと花博)」のレガシーを受け継ぎ、花畑広場・中心市街地及び水前寺江津湖公園に、金峰山を加えた3つのエリアで、それぞれの会場の特色を活かした花や緑を体感できる展示やアクティビティなどが体験できる「くまもと花博2023」を開催しました。また、令和3年(2021年)3月に改定した「緑の基本計画」の実行性を高めるためのアクションプログラムを策定し、日々の暮らしの中で花と緑を実感でき、それを誇りに思えるような持続可能な「森の都」を実現していくための取組を進めています。



熊本市中心部のみどりの状況(通町筋電停から熊本城公園)



「くまもと花博2023」において辛島公園に設置したフラワーアート

いつもイキイキ
けんせつ小町！
土木

「けんせつ小町」は建設業で活躍する女性の愛称です。

西松建設株式会社
立野ダムJV工事事務所 工事係

おのざわ かな
小野澤 果奈さん

2021年入社／東京都出身
東京電機大学 理工学部 建築・都市環境学系卒業



どんな工事現場でも通用する 土木技術者をめざします。

建設業界に入った理由は何でしょうか。

「ものづくり」が好きだったこと、そして多くの人のためになるような仕事をしなかったことが土木業界を選んだ理由です。きっかけになったのは、大学入学後に見学した「湯西川ダム」。最初は建築を志望していたのですが、ダムという大きい構造物を造ること、またダム自体が利水や治水などの多くの役割があるということ、さらには場所や条件によって種類や形式が異なることに興味を持ち、将来は、そうした社会資本整備につながる構造物の建設に携わりたいと思いました。

現在の仕事内容ややりがいを教えてください。

主に堤体内の監査廊の扉や手すり等の設置、造成アパートのコンクリート構築に携わっています。監査廊内やダム天端は他業者の作業や車両通行が多いため、作業車の通行止めの事前調整や計画も担当しました。やりがいを感じるのは、打ち合わせや計画通りに作業が進み、構造物ができあがっていく様子を目にするとき。完成した構造物を見ると、達成感も高まります。まだ携わった現場が竣工を迎えたことはありませんが、自分の担当工種が完成するだけでもやり切ったという思いは強いです。

これからの目標や叶えたい夢はありますか。

目標は、「現場での臨機応変な判断をもとに、的確な指示が出せるようになる」こと。作業前の業者間の事前調整や確認は行っていますが、作業後の諸問題に素早く対応できないことがまだ多く、作業に支障を来してしまうこともあります。そうした事態にならないよう先輩と相談し、周囲とコミュニケーションを取った上で、現場全体を把握しながら、的確な指示が出せるようになりたいです。現場経験を積み、資格等も取って知識を増やし、どんな現場でも通用するような技術者への成長をめざします。

未来の
けんせつ小町へ
メッセージ！

土木現場はまだ女性が少なく体力面でも大変なことが多いですが、大きなものを作る仕事だけにやりがいも大きいです。また、業界全体で女性が働きやすい環境づくりに気を配っていただいており、女性専用の設備も整ってきています。ものづくりが好きな方や建設業界に関心がある方は、機会があれば現場の見学会等に参加して実際の雰囲気に触れ、進路の一つとして興味を高めていただけると嬉しいです。

工事名：立野ダム建設工事／概要：堤高87m、堤頂長197m、堤体積43万m³、総貯水容量1,010万m³、流水式ダム／場所：熊本県阿蘇郡南阿蘇村立野～菊池郡大津町大字外牧／工期：2018年2月16日～2024年3月28日／施工企業：西松・安藤ハザマ・青木あすなろ特定建設工事共同企業体

いつもイキイキ
けんせつ小町！

「けんせつ小町」は建設業で活躍する女性の愛称です。

株式会社大林組九州支店 土木工事部 副部長
一級建築士・技術士(建設部門)

やまもと みほ
山本 美穂さん

1992年入社／東京都出身
埼玉大学 工学部 建設工学科卒業



女性技術者の良き事例となるよう 定年まで無事に勤めあげたい。

建設業界に入った理由は何でしょうか。

親族(父方の祖父)が工務店を営んでおり、幼少時によく工事現場に連れていってもらったことがきっかけです。何もない土地に家やビルが建っていくことに幼いながら感動し、大人になったら建物を作る人になりたいと考えました。大学で建設分野を学んだ後、大林組へ。入社3年目の時に「東京湾横断道路(アクアライン)」で、大規模なものづくりに対する楽しさを感じながら懸命に取り組んだことが思い起こされます。まだ当時は、現場で働く女性技術者はとても珍しい時代でした。

現在の仕事内容ややりがいを教えてください。

福岡で開催された世界水泳選手権の地行浜会場の設営工事に携わった後、現在は、支店の工事部で新規工事計画などの現場支援にあたっています。やりがいは、やはり自分が立案・計画した通りに構造物が出来あがる達成感を味わえることです。入社後31年間のうち約22年が工事現場勤務でしたが、上司から「自分が働きやすいように作業現場を改善してほしい」と指示を受け、今まで数多くの女性向け休憩所、トイレ、洗濯室を設営するなど、女性が働きやすい環境づくりに力を注いできました。

これからの目標や叶えたい夢はありますか。

無事に、定年退職まで勤めあげることです。今でこそ、建設業界に入ってくださる女性も増えてきましたが、入ることよりも長く続けていく方が大変だと考えています。今まで建設の仕事に携わる中で、結婚や出産、子育て、親の介護、自分自身の病気などで退職された女性達を数多く目にしてきました。定年までこうしたことをすべてクリアして勤めあげる事は、男性よりも大変だと考えていますので、私自身はこれを目標にぜひ達成したいと思っています。

未来の けんせつ小町へ メッセージ!

当然ですが、仕事は一人ではできません。周囲の協力と理解があって、初めて成り立ちます。私自身の体験から、自分の周りに理解をしてくれる人を増やすためには、自分自身が周りを理解してあげることが必要だと感じています。建設業で働くには技術力と共に、コミュニケーション力も大切です。両方の能力を備えた女性の方々がもっと建設業界に増え、盛り立ててくださることを大いに期待しています。

金山川調節池整備工事

■開催日／2023年8月3日 ■場所／北九州市八幡西区 ■施工企業／若築・白海共同企業体



夏休み中に開催している、「親子現場見学会」。今回は7家族18名の参加者が、北九州市八幡西区で行われている「金山川調節池整備工事」の現場を訪問しました。当日は、猛暑のなかでの実施になりましたが、工事の説明会を、噴霧装置を設置した高速道路高架下の日陰スペースで行ったり、参加者にスポーツドリンクを配ったりと、熱中症防止対策を図りながら行われました。説明会では、北九州市河川整備課の担当者が治水事業の概要を解説。次いで若築建設(株)の作業所長が、「世の中のため、人のためになる生活に不可欠な仕事」と建設業の魅力を語った後に、工事方法や環境対策などを紹介しました。

お弁当での昼食が済むと、現場見学の時間です。掘削した池の外周を歩きながら流入施設や遮水壁などを、また、工事用の階段を使って池の底となるエリアに降りてからは流出施設(トンネル部分)などを見て回りました。見学途中には、工事用の岩盤切削機をリモコン操作で参加者の前へ移動させるパフォーマンスも。多くの親子がこの建設機械の前で記念撮影をするなど、盛り上がりを見せていました。見学終了後には、若築建設(株)からお菓子や無添加石けん、ボールペンやエコバッグなどをプレゼントされ、子どもたちは大喜びの様子でした。



調節池の外周を歩きながらウォッチング。



工事で活躍した建設機械が目の前に登場!



「金山川調節池整備工事」は、北九州市八幡西区小嶺1丁目ほかで行う、金山川流域における洪水防止が目的の工事です。掘削工、ブロック積工、透水性舗装、自然土硬化舗装、遮水壁工、流入施設工、流出施設工などの工事を実施。調節容量は40,000m³(25mプールの約111杯分)、施設面積は11,600m²で、工期は、令和6年3月31日までの予定。

日田山国道路 日田5号トンネル工事

■開催日／2023年10月26日 ■場所／大分県日田市 ■施工企業／前田建設工業・菅組・下徳産業建設共同企業体



日建連九州支部のけんせつ小町部会が企画した「けんせつ小町現場見学会」が、大分県日田市の日田山国道路「日田5号トンネル」の工事現場で行われ、会員企業や大分県のけんせつ小町たち38名が参加しました。移動中のバス内で、けんせつ小町部会の部会長が「見学以外に、参加者同士の交流も今回の目的。多くの方と交流を深めていただきたい」と挨拶。あわせて、3名のけんせつ小町が出演したラジオ番組の録音を流すなどして広報活動の一端を紹介しました。

見学会では、前田建設工業(株)の作業所長が工事概要として、生産性や安全性の向上を図るためのロボット施工などに加え、環境に配慮した取り組み、お祭りの参加や道路整備など地域に寄り添う様々な活動なども説明しました。その後は、トンネルへ移動し、トンネル内を先端部分まで歩きながらロックボルト工やコンクリート吹き付け、使用されている建設機械などを見学しました。また最後には、坑口に設置された二重の防音扉の間で、実際の「発破」による音や衝撃波も体感!現場見学後は質疑応答になりましたが、けんせつ小町たちは作業所長から「建設業界のためにも女性の活躍は不可欠、頑張って作業所長になってください」と激励の言葉を送られ、交流を楽しみながらの見学会は終了しました。



トンネル内を歩いて工事の様子を見学。



坑口の防音扉の間で「発破」の音や衝撃波を体感!



日田山国道路「日田5号トンネル」は、建設が進む自動車専用道路の日田山国道路(延長8.8km)で行われているトンネル工事で、全体延長は940m(トンネル延長869m)。1日4～5回の発破作業が行われ、2024年1月19日に貫通しました。道路が整備されることにより、「移動時間の短縮」「安全性の向上」「災害時における交通の確保」などの効果が見込まれています。

早岐川河川改修工事(1号橋下部工) 佐世保道路 佐世保高架橋南(下部工)工事・佐世保高架橋(拡幅)工事

■開催日／2023年11月21日 ■場所／長崎県佐世保市
■施工企業／早岐川河川改修工事(1号橋下部工)：(株)協和土建、佐世保道路 佐世保高架橋南(下部工)工事：(株)奥村組



高校生を対象にした「土木工事現場見学会」が開催され、佐世保工業高等学校土木科1年生の39名が、長崎県が担当する「早岐川河川改修工事(1号橋下部工)」、NEXCO西日本が担当する佐世保道路「佐世保高架橋南(下部工)工事」と「佐世保高架橋(拡幅)工事」の3現場を訪問しました。高校生たちは早岐の河川改修工事現場見学の後に、ホテルの会議室へ集合。発注者の長崎県とNEXCO西日本、コンサルタント企業の(株)片平新日本技研、施工企業の(株)奥村組の担当者から、事業内容や仕事のやりがいなどの説明を受けました。

その後の現場見学では、まず「佐世保高架橋南(下部工)工事」の現場へ移動。工事場所となっている湾岸エリアを歩きながら、橋脚を建てるための海上工事などを見学しました。工事に用いる大きな鋼管や建設機械などに目を奪われるなか、「この後はどういう工事が行われ、最終的にどういう形なるのか」と女子生徒も作業員に積極的に質問していました。その後は、拡幅工事の現場へ。ここでは、そびえ立つクレーンや現場に並べられた大きな橋桁などを見学しました。見学会について生徒からは、「建設業といっても、いろんな仕事があるのだなと思った」という感想、また「重機や構造物など、工事現場のスケールや迫力に驚いた」などの声が聞かれました。



大きな橋桁が並ぶ現場にみんな興味津々。



NEXCO西日本による高機能舗装の透水実験も実施！



「早岐川河川改修工事(1号橋下部工)」は、早岐川の流量の安全な流下を図るための河道整備工事。「佐世保高架橋南(下部工)工事」「佐世保高架橋(拡幅)工事」は、渋滞解消による物流効率化、中央分離帯設置による中央突破事故の減少、地域経済・地域社会を支える道路ネットワークの信頼性向上などが期待される、西九州自動車道(佐世保道路)の4車線化事業(延長16.9km)に伴う工事です。

NEXCO西日本 道路管制センター 福岡201号 九郎原トンネル新設工事

■開催日／2023年12月20日
■場所／NEXCO西日本 道路管制センター：福岡県太宰府市、福岡201号 九郎原トンネル新設工事：福岡県飯塚市
■施工企業／福岡201号 九郎原トンネル新設工事：(株)安藤・間



土木学会西部支部と日建連九州支部との共催による現場見学会が行われ、34名が2カ所の現場を訪問しました。最初の見学地は、「NEXCO西日本 道路管制センター」です。参加者は、見学ルームに集合。そこでNEXCO西日本の担当者から、同社の主な業務や道路管制センターの役割などの説明を受けました。説明の後は、幾つものモニターが並び、24時間、リアルタイムで九州内の高速道路の道路情報が入ってくる道路管制センターを窓越しに見学。「落下物の確認は?」「関門トンネルはどこの担当?」「都市高速との連携は?」など、参加者から多くの質問が上がり、高速道路の管理に対する大きな関心が伺えました。

次いで、「福岡201号 九郎原トンネル新設工事」の現場見学です。参加者は、まず作業所長から工事概要の説明を受けた後、実際にトンネル内を歩いて見学しました。坑口近くの防音壁を通り抜け、支保工やロックボルトが施工された内部を見ながら、工事の最先端場所へ。ここでは、火薬用の穴を岩盤に開けるドリルジャンボ機の動く様子も見ることができました。見学の後は、「道の駅いとだ」で楽しい買い物の時間。帰りのバス内では、見学会終了の挨拶の後に拍手も起こるなど、参加者は道路管制センターやトンネル工事の知識を楽しく学んだ1日となりました。



道路管制センターの概要説明に聞き入る参加者。



トンネル最先端場所の様子もじっくり確認。



「NEXCO西日本 道路管制センター」は、高速道路の安全快適な走行環境を確保するため、24時間365日体制で高速道路の情報収集や監視・制御を行う施設です。「福岡201号 九郎原トンネル新設工事」は、福岡都市圏と筑豊地域を結ぶ幹線道路「国道201号八木山バイパス」の4車線化事業に伴う、延長568mのトンネル新設工事です。工期は、令和5年3月2日～令和6年10月31日。



けんせつ小町3名が FMラジオに出演し、 建設業の仕事を紹介!

建設業で働くすべての女性の愛称である「けんせつ小町」をアピールするため、前田建設工業(株)、西松建設(株)、鹿島建設(株)の3名のけんせつ小町が、3日に分けてFMラジオ「LOVE FM(ラブエフエム国際放送)」の番組、「スイッチオンDAYTIME」に出演し、それぞれの仕事内容や仕事のやりがいなどを紹介しました(12時30分から約10分間放送)。

放送では、DJがまず「けんせつ小町」の愛称を説明。その後、現場で働くけんせつ小町に、「土木・建築分野で働こうと思ったきっかけは?」「どんな仕事を担当していますか?」「やりがいを感じるのはどんな時?」などをインタビューする形で進行していきました。あわせて今回は、日建連九州支部の活動も説明。放送局によると、3日間で延べ1万人~2万人がこの番組を聴取したとのこと。

さらに今回は、番組に感想を寄せていただいたリスナーへ、抽選で「けんせつ小町オリジナルグッズ」もプレゼントしました。リスナーからは、「女性の活躍を応援しています」や「このコーナーを楽しみにしていました」のほか、「このラジオに出た女性のようなけんせつ小町になりたい」などの声が届きました。

取材の様子は、天神・博多を中心に福岡の最新情報を発信している地域情報ポータルサイトの【天神サイト】を開き、「けんせつ小町」で検索すればご覧いただけます。

天神サイト けんせつ小町

検索

◀ラジオに出演したけんせつ小町(左から、前田建設工業(株) 前田夢季さん、西松建設(株) 末継紗管さん、鹿島建設(株) 平野里佳さん



土木の日 ファミリーフェスタ 2023

■主催/福岡地区土木の日実行委員会
■開催日/2023年10月1日
■場所/国営海の中道海浜公園
子供の広場管理棟

なぜ11月18日は
土木の日なの?

なぜ11月18日になったかという、2つの理由があります。1つは、土木という漢字をそれぞれ分解すると「土は十と一」「木は十と八」になるからです。もう1つは、社団法人「土木学会」の前身にあたる「工学会」の創立日が、明治12年11月18日なので、昭和62年にこの日を「土木の日」と定められました。

ラジコンゲームとキッズユニフォームで建設業の仕事をアピール!

「土木の日ファミリーフェスタ」は、“体験しよう!土木のちから!”をキャッチフレーズに開催される、ファミリー向けの楽しいイベントです。日建連九州支部は前年に引き続き、無人化施工を模した「バックホウのラジコンゲーム」のコーナーを、子供の広場管理棟の前に設置しました。このゲームは、リモコンによってミニチュアバックホウを操作し、モニターを見ながらカゴの中のお菓子を拾い上げる楽しいゲームです。このゲームを通じて、子どもたちとその家族に建設業の仕事をアピールしました。また、「ユニフォームから建設業界を変える」というコンセプトのもと、本部のけんせつ小町支部が監修・製作した、キッズ用ユニフォームを着用してもらうドリームプロジェクトも同時に実施しました。子どもたちは、オリジナルユニフォームを着てラジコンゲームに熱中。また、記念撮影するファミリーも多く、子どもたちはピースサインでパチリ!「楽しかった」といった感想も聞かれました。なお、九州支部のブースには約700人の親子が来場しました。



DREAM PROJECT

子どもたちに、もっと建設業に興味を持ってもらいたい。地域や人々の暮らしを支える大切な仕事だと知ってもらいたい。そんな想いで開催している現場見学会で、子どもたちが着用するオリジナルユニフォームを製作する「ユニフォームから建設業界を変える! Dream Project」。ユニフォームメーカーのHARADA株式会社とタッグを組み、機能的でかっこいいオリジナルユニフォームブランドを手掛けているDREAMS COME TRUEの中村正人さんを迎え、子どもたちに「カッコいい!」「着てみたい」と思ってもらえるユニフォームを完成させました。

(ポスターのコピーから)

インターンシップ講演会

■主催／長崎大学 ■開催日／2023年12月6日 ■場所／長崎大学



2023年度インターンシップ講演会で会員企業の3名が講師に!

日建連九州支部は毎年、長崎大学工学部工学科社会環境デザイン工学コースの要請によって会員企業から社員を派遣し、「インターンシップ講演会」で講演を行っています。これは、就職を控える学部学生および大学院生に対し、土木事業に携わる建設業者やコンサルタント業者、公務員の「生の声」を届け、進路決定に役立ててもらうために企画されたイベントです。

2023年度は、日建連九州支部の推薦による「前田建設工業(株)」と「松尾建設(株)」の2名、また長崎大学の要請による「りんかい日産建設(株)」の1名を加えた、会員企業の3名が講師となり、建設業界に関心を持つ学生たちに建設業や自社業務の紹介、仕事のやりがいなどについて説明しました。

参加者の声 (社会環境デザイン工学コース3年生の感想文から抜粋)

●ゼネコンは、高度な技術力、施工計画力を有し、建設業の現場最前線で働くという役割があると認識した。そして、この役割では「自分の造ったもの・携わったもの」ができていく過程を一番近くで見届けられる」という良さがあると思った。これは、現場に出て作業をするゼネコンならではの良さであると感じた。また、工事が完成した時の達成感を味わうことができるのも、この職種ならではの魅力であると考えられる。しかし、この良さや魅力は、時には過酷な環境下での仕事や難題に対して、持ち合わせる技術力を集結させたり、発注者や職人の方と一体となったりした結果、得られる賜物であることを忘れてはいけないと思った。

●建設業では、担当する地域の工事を行っており、計画・準備から施工、完成までを現場で行うため、とてもやりがいを感じる事ができると考えた。労働環境も改善されており、以前のようなイメージを持つことはなかった。大雨や台風・季節の影響を受けるという点も人間の生活が自然と密接な関係を持っていることを表していると考えた。人間の生活を豊かにすることは、自然と向き合うことでもあるため、建設業ではそうした貴重な経験ができると考えた。

●建設業においては、様々な仕事があり、大きな規模のものがあったりして、自分のスキルなどを常に向上させたり、新しいことに挑戦できたりで、とても夢のある職場であると感じました。また、その新しい挑戦のために、プロジェクト管理など様々な仕事があり、授業などで受けた内容との共通点を見つけ、改めて、その重要性について理解することができた。

●建設業について、これまでの建設業の方々のお話も含めて、「きつい・汚い・危険」の「3K」のイメージがなくなっていることを実感しました。建設業の魅力としても、いろいろな地域に行くことができたり、その地域の地図に造り上げたものを残すことができたりなど、大変なことも多いけれど、その分やりがいのある仕事であると感じました。

災害支援関係者説明会

■主催／日建連九州支部 ■開催日／2023年6月20日 ■場所／福岡国際会議場



近年、気候変動の影響によって、大雨などによる気象災害が激甚化・頻発化しています。また、地震大国と称される日本は、常に巨大地震の危険に晒されています。日建連九州支部は、こうした起こりうる日本の災害状況をふまえ、九州地方整備局等と大雨や地震等の災害が起こった場合の「災害支援協定」を締結しており、要請に応じて、資機材等の支援を行うことになっています。

この支援を円滑に行うために、九州支部では支部会員企業から災害支援に携わる関係者を集めた「災害支援関係者説明会」を開催しました。本部長(代行)の挨拶の後、「災害支援協定について」をはじめ、「災害対策要領・災害対策要領マニュアルについて」「緊急連絡体制等の確認について」「工事箇所登録システムについて」「その他・情報伝達訓練について」が順次説明されました。その後は、班ごとに分かれて、班長からの連絡メールを確認。また、6月26日の情報伝達訓練(昼間用)、6月29日の情報伝達訓練(夜間用)の2回、携帯電話やPCによる緊急時の確認作業が行われました。

九州建設技術フォーラム2023

■主催／九州建設技術フォーラム実行委員会ほか ■開催日／2023年10月11・12日 ■場所／福岡国際会議場



九州建設技術フォーラムは、新しい建設技術の開発・活用・普及促進をより効果的に図るために、「産」「学」「官」が、それぞれの新技術の開発・活用の取り組みについて情報を発信・交換するイベントです。

2023年度は、「インフラ分野で進化するDX」をテーマに設定して各プログラムが実施されました。11日は、立命館大学総合科学技術研究機構の建山和由教授による「DX時代の新しい建設産業に向けて」と題した基調講演が行われたほか、リクルーティングプレゼンテーションを実施(当日のみ)。このリクルーティングプレゼンテーションでは、日建連本部のリクルート担当者が土木の仕事やゼネコンの魅力などを説明、建設業に興味を持つ専門学校生や大学生らが参加しました。また、12日には、特別イベント「土木×落語」も開催。2日間にわたってブース展示、ポスターセッション、プレゼンテーションなどで技術情報が提供され、WEBサイトからも技術情報などが配信されました。なお、2日間で合計約2,400人が会場に足を運びました。

建設技術講演会

■主催／日建連九州支部 ■開催日／2023年10月16日 ■場所／福岡国際会議場



建設技術講演会は、建設業に関する技術の進歩と経営の改善を推進し国民生活と産業活動基盤の充実に寄与することを目的に、建設産業に関する専門的知識の習得および研鑽を図るために開催されています。

2023年度は小森浩之支部長の挨拶に続き、3講演が行われました。まずは、九州地方整備局企画部の阿部成二技術調整管理官による「建設業における最近の話題について」からスタート。項目の中から、「建設業における働き方改革」「円滑な施工体制の確保」を重要ポイントとして説明されました。次いで、ホームページコンサルタント永友事務所の永友一朗氏が講師となってWEBによるリモート講義を実施。「チャットGPTで業務効率UP!」というテーマで、今話題のチャットGPTにおける概要や注意点、操作の仕方などを解説されました。そして最後は、九州地方整備局企画部の房前和朋建設専門官が、「九州地方整備局におけるDXの取り組みについて」という演題で、進展するデジタルトランスフォーメーションの取り組み事例等を説明されました。

災害防止総決起大会

■主催／日建連九州支部安全環境委員会 ■後援／福岡労働局 ■開催日／2023年11月13日 ■場所／福岡国際会議場



建設業における労働災害は長期的には減少傾向にありますが、死亡者数は依然として全産業の中で占める割合が高く、憂慮すべき状況は変わりません。そこで九州支部では年末年始の災害防止活動として11月に「災害防止総決起大会」を福岡労働局の後援のもと開催し、労働災害の撲滅を期しています。2023年度は小森浩之支部長、そして福岡労働局の小野寺徳子局長の挨拶に続き2つの講演が行われました。

まず、福岡労働局労働基準部安全課の平田和弘産業安全専門官が、「建設工事における労働災害の防止について」という演題で、「死亡災害発生状況の推移」や「令和5年度建設業における安全衛生対策<概要>」などを説明。次いで、九州地方整備局企画部の阿部成二技術調整管理官が「建設現場における事故防止の取り組みについて」と題し、「事故事例 私の経験」を柱に、事故原因などを解説されました。講演後は、大津健二安全環境委員会第1小委員長が「決意表明」を上田哲夫安全環境委員会委員長へ読み上げ大会は終了しました。

意見交換会

■主催／日建連九州支部 ■開催日／2023年12月6日 ■場所／TKPガーデンシティ博多



毎年、日建連九州支部では国土交通省九州地方整備局と「意見交換会」を開催しています。2023年度は30名が出席して、意見を交換しました。

冒頭、小森浩之支部長が、「労働時間短縮や現場の週休2日などを加速させたい。これには適切な工期設定、工程の共同管理など、発注者の理解が不可欠。また、若者や女性にとって魅力ある建設業を目指し取り組みたい」と要望を交えながら挨拶。これに対し「適正な工期設定、書類の簡素化などの意見をもとに検討し、整備局の中でできるものは全てやっていこうという方向で対応したい」と九州地方整備局の笠井雅広企画部長が挨拶されました。続いて、九州地方整備局が「働き方改革関係」の情報を提供した後、九州支部が「入札契約手続きについて」「生産性の向上について」「労働環境について」「業務の効率化について」「カーボンニュートラルへの取組について」など7つの提案テーマを説明し、九州地方整備局が回答。約2時間にわたって活発な意見交換が行われました。

安全環境委員会活動

現場点検の実施状況および講習会の開催状況

<2023年度 安全環境委員会の主要活動>

部会別区分	現場点検	講習会受講者
交通	2回 5現場 10名	1回 54名
地下埋	0回 0現場 0名	1回 51名
火薬類	2回 4現場 8名	1回 27名
環境	2回 8現場 16名	1回 45名
計	6回 17現場 34名	4回 177名



団体の概要

〈一般社団法人日本建設業連合会〉

■設 立

(社)日本建設業団体連合会(旧日建連)、(社)日本土木工業協会(土工協)、(社)建築業協会(建築協)の三団体は、2011年4月1日に合併し、(社)日本建設業連合会(日建連)として新たに発足しました。また、2013年4月に一般社団法人に移行しました。建設業界が大きな転換期を迎えつつある今、建設業団体としての機能を一層強化・拡充し、建設業の発展に向けた活動をより強力に展開してまいります。

■目 的

日本建設業連合会(日建連)は、日本を代表する総合建設業者を主な構成員とする団体です。日建連は、建設業に係る諸制度をはじめ、建設産業における内外の基本的な諸課題の解決に取り組むとともに、建設業に関する技術の進歩と経営の改善を推進することにより、わが国の建設産業界の健全な発展を図り、もって国民生活と産業活動の充実に寄与すること、を目的としています。

■会 員

日建連は、建設業界の連合組織であり、正会員である団体会員と法人会員、および特別会員によって構成されています。

- 法人会員…一定規模以上の総合建設業者
- 団体会員…主に総合建設業者で構成する事業者団体

さらに、日本国内で事業活動を行っている外国の建設業者および、建設業に密接に関連する事業を行っている法人を対象にした特別会員制度も設けています。

2024年2月1日現在の会員数は、正会員141社・5団体、特別会員6社です。

■役 員

総会において理事、監事が選任されます。任期はそれぞれ2年となっています。協会活動の円滑な運営を図るため、理事会の決議により会長、副会長、事務総長、専務理事、常務理事を置いています。

■機 関

事業を推進するため、次の機関を設置しています。

- ①総 会
定時、臨時の2種類があり、定時総会は毎年4月に開催されます。事業計画、収支予算、役員の選任など協会活動の基本的な諸事項について審議、決定します。
- ②理事会
通常、毎月1回開催され、総会に付議する事項や総会の議決を要しない会務に関する事項を審議、決定します。
- ③事業本部および委員会
協会活動の中心となる調査研究組織であり、2つの事業本部と2つの特別委員会、28の委員会を設けています。委員は会員各社から募り、建設業に係る諸問題について調査研究活動を行っています。
- ④支 部
全国9地区に支部を設置しています。支部には、支部長、副支部長、運営委員、監査委員を置き、本部の活動方針に基づく活動を行っています。
- ⑤事務局
本部、支部それぞれに事務局を設置しています。

〈九州支部の概要〉

■設 立

当支部は、本部の合併により、2011年4月1日から(社)日本建設業連合会(日建連)の九州支部となりました。また、2013年4月に一般社団法人に移行しました。
支部の活動は、引き続き従来どおりの活動を行うとともに、3団体合併の主旨に則り、建設産業全体の健全な発展へ向けた諸活動をより強力に展開してまいります。

■会 員

支部の会員は「九州地区において本社・支店等を有し建設業を経営する業者で、かつ、本部会員である者」に限られています。また、九州地区に本社・支店等がなくても、本部正会員であれば、支部の会員になることができます。
したがって企業規模・技術水準・社会的信用などあらゆる面で真に業界を代表するに足る企業によって構成されている団体です。
会員数は2024年2月1日現在で59社を数えています。

■役 員

支部長は総会において、支部長候補者の了承後、会長から任命されます。副支部長は総会で選任された運営委員の互選により支部長が任命します。副支部長は9名を置いています。監査委員は総会において推薦者の了承後監事が指名します。任期はそれぞれ2年となっています。

■事 業

- 本支部は次のような事業を行っています。
- ①災害対策への対応
 - ②公共工事の円滑な実施
 - ③安全・環境対策等の推進
 - ④請負契約制度の改善および積算の適正化と資材対策の推進
 - ⑤技術開発の推進
 - ⑥電力施設建設事業、鉄道建設事業、海洋開発建設事業の推進
 - ⑦広報活動の推進

■委員会

支部活動の中心となる調査研究機関として、広く会員から委員を募り、総務広報委員会、契約委員会、積算資材委員会、電力委員会、鉄道委員会、安全環境委員会、建築委員会を設置しています。

■沖縄支所

沖縄地区での活動を実施するため、1996年6月から沖縄に支所を置いています。支所に所属する会員数は43社を有しています。

一般社団法人日本建設業連合会九州支部会員

(五十音順 2024年2月1日現在59社)

ア

アイサワ工業(株)九州支店
青木あすなろ建設(株)九州支店
あおみ建設(株)九州支店
(株)浅川組九州営業所
(株)浅沼組九州支店
(株)新井組九州支店
(株)安藤・間九州支店

イ

岩田地崎建設(株)九州支店

ウ

梅林建設(株)

オ

大木建設(株)九州支店
(株)大林組九州支店
(株)大本組九州支店
(株)奥村組九州支店
オリエンタル白石(株)九州支店

カ

鹿島建設(株)九州支店
鹿島道路(株)九州支店

キ

九鉄工業(株)

ク

(株)熊谷組九州支店

コ

広成建設(株)九州支店
(株)鴻池組九州支店
五洋建設(株)九州支店

サ

佐藤工業(株)九州支店
三軌建設(株)

シ

清水建設(株)九州支店
ショーボンド建設(株)九州支店

セ

西武建設(株)九州支店
(株)銭高組九州支店

タ

大成建設(株)九州支店
大成ロテック(株)九州支社
大日本土木(株)九州支店
大豊建設(株)九州支店
(株)竹中工務店九州支店
(株)竹中土木九州支店

テ

鉄建建設(株)九州支店

ト

東亜建設工業(株)九州支店
東急建設(株)九州支店
東洋建設(株)九州支店
戸田建設(株)九州支店
飛島建設(株)九州支店

ニ

西松建設(株)九州支社
日特建設(株)九州支店
日本国土開発(株)九州支店
(株)NIPPON九州支店

ノ

(株)ノバック九州支店

ヒ

(株)ピーエス三菱九州支店

フ

(株)福田組九州支店
(株)フジタ九州支店
(株)不動テトラ九州支店

ホ

(株)本間組九州支店

マ

前田建設工業(株)九州支店
松尾建設(株)

ミ

三井住友建設(株)九州支店
みらい建設工業(株)九州支店

ム

村本建設(株)九州支店

モ

(株)森本組九州支店

ヨ

(株)吉田組九州支店
寄神建設(株)九州支店

リ

りんかい日産建設(株)九州支店

ワ

若築建設(株)九州支店

役員

(2024年2月1日)

支部長	鹿島建設(株)九州支店長 小森 浩之	副支部長	清水建設(株)九州支店長 湯原 克佳
副支部長	西松建設(株)九州支社長 吉田 卓生	〃	(株)安藤・間九州支店長 黒田 二郎
〃	梅林建設(株)社長 梅林 秀伍	〃	鉄建建設(株)九州支店長 重永 秀彦
〃	大成建設(株)九州支店長 西河 誠	〃	(株)大林組九州支店長 上田 哲夫
〃	(株)熊谷組九州支店長 山下 正治	〃	(株)鴻池組九州支店長 北西 隆司

運営委員	青木あすなろ建設(株)九州支店長 大石 雅俊	運営委員	日本国土開発(株)九州支店長 染矢 敏寿
〃	(株)奥村組九州支店長 林 裕之	〃	(株)フジタ九州支店長 安東 則好
〃	九鉄工業(株)社長 松本 喜代孝	〃	前田建設工業(株)九州支店長 尾付野 誠
〃	五洋建設(株)九州支店長 小倉 征巳	〃	松尾建設(株)社長 松尾 哲吾
〃	佐藤工業(株)九州支店長 中村 豊彦	〃	三井住友建設(株)九州支店長 長谷川 弘明
〃	(株)銭高組九州支店長 脇 芳弘	監査委員	大日本土木(株)九州支店長 中山 努
〃	(株)竹中土木九州支店長 小西 真臣	〃	東急建設(株)九州支店長 三嶋 昭
〃	戸田建設(株)九州支店長 畑中 靖博	〃	(株)不動テトラ九州支店長 佐藤 敬
〃	飛島建設(株)九州支店長 柳森 豊		